

分科会 読み聞かせ（質疑応答）

コーディネーター 河井 律子氏

Q（河井） ため息の出るようなすばらしい活動を聞き皆さんも充分勉強になったのではないのでしょうか。皆さん方は目標も課題も全て見えて活動している感じで、心頼もしく感動しながら発表を聞かせていただきました。まず、事例発表された方に、もっと詳しく聞きたいところがあればお願いします。ねっこぼっこさん、資金繰りはどのようにされていますか、お聞かせください。

A（ねっこぼっこ） 資金繰りは大変困っています。図書館（町）から年間3万円の補助金と学校からは、1時間学校に入った時に月2, 500円を頂きます。ほとんど材料費に消えてしまいます。自分の車を使い手弁当ですが、ボランティアだから好きでしているからと頑張っています。もう少し資金がほしいと思っています。

Q（河井） 基本的には材料費くらいはなんとか叶えてほしいということですね

A（ねっこぼっこ） 工作や折り紙をする時は図書館にお願いして図書館の方からいただいています。

Q（河井） 一柳さんのところは、活動費はどうされていますか

A（篠栗おはなし会） 私たちは自分たちで年間会費を少し払っています。学校の授業に参加した時に1人1,000円いただくところ、500円いただくところ、そして、いただかないところも多くあります。

Q（河井） 会費を払っているという、ほんとのボランティア精神がとてもよく分かりました。お金の話はなかなか表に出ないので今回の参考になりました。ありがとうございます。そらいろ文庫さんは写真を見ると子ども達がたくさん集まっていますが、お話し会に毎回どのくらい子ども達が来ますか。

A（そらいろ文庫） お話し会には大体50名から60名で、本の貸し出しの時間が30名から40名です。

Q（河井） 学校に出かけていく時は学校に子ども達がいますから大丈夫ですが、子ども達を図書館や公民館に集めるのはとても難しいと思います。今のお話では1回に50・60名は集まるようですね、集客の方法は公民館や学校でチラシを配るというお話でしたが、それだけで特別に公民館に来るのですか。

A（そらいろ文庫） 人口が多いのもあります。それと学校にもお話し会ができたので、その辺の顔つなぎというのがあります。

Q 全員に配るのでしょう？

A（そらいろ文庫） 案内を世帯数ではなく1年生から6年生までの子ども達全員に一枚ずつ配ります。

Q 学校が配ってくれるので、来るんですね。

A（そらいろ文庫） 公民館の図書ボランティアだからです。多分民間のものだと、ここだけ配るということは出来ないでしょう。公民館からということで配ってくれます。

Q（河井） 公民館のほうから学校にお願いするという仕組みになっているんですね。チラシの費用はどうしていますか。

A（そらいろ文庫） 公民館と共存共栄というか、自分達で作ったチラシを「お願いします」と持って行きます。紙も公民館のもので印刷してもらい「配布をお願いします」と、学校に持って行ってもらっています。

Q（河井） 本当の共存共栄ですね。公民館の図書ボランティアだから、公民館が主体的に動いているんですね。

A（そらいろ文庫） 主体的に動いているというか、お話し会等は私達に任されていますが、予算が年

に2万円しかないので、紙やお話し会で使うものや金銭的なものは公民館にお願いしています。

Q (河井) 公民館が全面的にバックアップをしている事例のようで、羨ましいお話かも知れませんね。子ども文庫連も立ち上げ当初から私もお話を聞いていて凄いなと思っていました。ずいぶん年月が経ちしっかり充実しているようですが、後継者の育成はどのように考えていますか、徳永さん達が頑張っているいろいろご指導されているのがよく分かります。次世代の講師クラスの人達を育てておられると思いますが、その辺の事情を聞かせてください。

A (文庫連) 市内の読書ボランティア講座にある経験者コースというのを図書館と一緒にやっていますので、そちらに来ていただいたり、サークルの中の代表者だけの連絡会ではなく、講習会、例えば特に派遣が必要なマタニティクラスとか4ヶ月検診は、毎年必ず講習会などを行っています。また県立図書館の講習会などにも皆さんに行くよう奨励しております。あとは、各小学校には、徳永さん方が無償で来てくださっています。

A (河井) ありがとうございます。本当に質の高い活動をしておられるので、後継者の育成が大変なのではと思い教えていただきました。講習会とかもコンスタントにやっているということでした。

Q 文庫連さんにお尋ねします。組織の代表や役員はどのように決めていますか。サークルから選びますか、それとも別ですか。

A (文庫連) 15サークルの代表者が毎回出てきています。その中から5人ほど役員に入っています。一昨年度前までは世代が上の、前園さんや徳永さんあたりでしたが、ちょっとフットワークを良くしようということで、私どものような若輩者の30・40代の人達がほとんどやっています。

Q 任期はどうですか？

A (文庫連) 任期は一応二年くらいです。そらいろ文庫さんのモットーのように、出来る人が出来る時にと、まずはそれを貫くために自分の家庭を大事にしましょう。何かあった時は必ず誰かが代わりに入る体制にしています。15サークルあってすごく大掛かりのように見えますが、実際はやり易い雰囲気の中で活動していると思います。

Q (河井) 三角さんならではのお話でした。立ち上げのメンバーから世代交代がスムーズにいった例だと思います。「羨ましいね！」の聲がしています。30・40代の方にバトンタッチして、とつても難しいのではないかと思います。何かあれば誰かが代わってするという、心丈夫な仕組みだと思います。

A (文庫連) 同じ世代が集まっていますので、役員会の中で話し合いが進み易いこともあります。もちろんバックアップしてくださる方々、何があっても大丈夫と言ってくださる重鎮の方々がいらっしゃいます。一応役員会の中で決めたことも、再度代表者会に意見を上げてから全体で決めるようにしているので、若い人だけや年配者だけの意見という形にならず、うまくミックスされてきているのではないかと思います。

Q (河井) 世代交代がうまくいっている、と思われる方がありましたらその様子を聞かせてください。悩んでいるところが多いかもしれませんね。参加者名簿の中から“いないいないばあ”さん、活動や今の状況・課題や悩みもあれば聞かせてください。

A (いないいないばあ) 私達は太宰府図書館で0歳から就園前の親子さんを対象に月に2回お話し会を開いています。毎月最後の水曜日が図書館の休みなので、その日に勉強会を開いています。勉強会の内容は午前中に翌月のプログラムを作り、午後は自分達の勉強会です。子どもを取り巻くいろんな状況や新しい本が出たとか、こういう記事を見つけた等を持ち寄り情報交換します。あとは年に6回、近くの保育園に行っています。単発で、夏休みは子ども会や夜のお話し会といろいろあり、絶対断らずに全部引き受けています。忙しいときは集中しまして、今時はクリスマス会の注文があちこちから

あります。また、湯布院の小学校にも伝（ツテ）があつて2箇所行っています。

Q（河井） 何か課題みたいなことはありますか。

A（いないないばあ） やっぱり世代交代ですね。年寄りが頑張っています。若い人達は仕事をしていいますので、なかなかコンスタントに活動出来ません。私達も出来る人が出来る時に頑張ろうとやっていますが、どうしてか学校の行事や子ども会の行事に重なってしまいます。小学校の子どもさんを持ったお母さん達は来れないことが多いので、足腰立たない老人になったら後をどうしようかと、そんなに切羽詰ってはいませんが、考えたら胸が痛くなります。

Q（河井） ありがとうございます。切実なお話でした。じゃあ、須恵のお話し会の方お願いします。

A（須恵おはなし会） 私達は0歳児から中学生までに、年間70～80回というサイクルでお話し会をしています。小学校の授業時間を中心にさせてもらっています。それが3校あり、それぞれ5月現在くらいで250回を超えるお話し会をしています。今年で19年目になります。19年間しているからこそ、今では250回という数になったと思います。私達も平均年齢60歳なので、これからは自分達の役割として次に繋げる人達を育てることが大きな課題だと思っています。会員は現在7名ですが2名休んでいますので実働は5名でしています。現役で仕事をしている人もいますので、ハードではありますが、頑張っています。

Q（河井） ありがとうございます。すごいですね！5名で年間70～80回して、どこも大変ですね。

A（篠栗おはなし会） 4つの小学校の昼休みと5時間目の授業にでていて、学校の年間計画には何年も前から入っています。私達も7名います。毎月1回勉強会をして20年になります。若い人も何人もいましたが、その人達は司書の勉強をして図書館の司書になるのが目的だったり、保育園の先生が目的で入り、現在受験中の人もいるので、多分残るのは私たち世代だと思います。若い人という意味では、図書館で絵本フェスタがあつた時、たまたま2歳児を持ったお母さんがいらして、お声かけしましたら、入られるような様子なので会うたびにお母さんの顔を見て「お話し会 誰でも入れますよ」「私でも入れましたよ」と言うようにしています。この声かけで何人もの方が入られましたので、この手は有効かもしれません。

Q（河井） お話し会に来られる方を見覚えるのも1つの手かもしれませんね。では、とんとん文庫さん。

A（とんとん文庫） 福岡市中央区の唐人公民館の中にある文庫です。私達も公民館の文庫として活動しています。あくまで公民館を前面に出すことで小学校や地域の幼稚園に入っています。私たちが前に入るよりは公民館を主体にすることにより、資金面などは、公民館のサークル活動を受け持ったときに講師料を頂いたり、地域の幼稚園からは謝礼として年間1万円ほどいただくこともあります。そういったものを積み立てて活動しています。同様に印刷なども公民館にお願いしています。主事さんからは、主事会も文庫活動を推進するように役所より言われているから「協力するよ」と、いつも言っていただけなのでやり易いかなと思っています。

活動としては地域の小学校に各学期1クラス1時間の授業で入るものと、月2回の貸し出し文庫活動です。それから、幼稚園に月に1回、地域の中学校に特別学級が1クラスあるので不定期的に行っています。それと友達のお話し会を年に1・2回ほどやっています。私たちのところは出来て13年目くらいで、元々は市民の育成会の貸し出しから始まったそうです。私たちが入った時は、小学生のお母さんくらいでした。今では前から入っているメンバーは年をとり、他のところと比べれば若いかもしれませんが50歳に手が届くくらいになります。これくらいの年になってくると家計も苦しくなり、皆仕事に出かけ、小学生の親御さんほど暇がなくなっています。時と場合を気にしないで、いつでもOKという人も少なくなってきました。なるべくメンバーが出来ることをやって、そのときに自分達のストレスも発散して楽しく活動できたらと思います。読み聞かせだけでなく、世間話や

家庭の愚痴でも何でも言い合えるような仲間として活動ができたらなと思ってやっています。

最近は貸し出しの時間が月に2回と決まっているのでその時間に確約できる人は現メンバーでは難しくなっています。「事務的な仕事だからお手伝いしていただけませんか」と公民館便りに載せてメンバーを集め、その人たちの中からお話し会に引き込んで、年に1人でも2人でも入ってくださればと思っています。

Q (河井) ありがとうございます。ボランティアさんの数は1人でも2人でもと、いうのも実感だと思います。では、那珂川町立小中学校読書ボランティア連絡会さん。

A (那珂川町立小中学校ボランティア連絡会)

私たちの団体は連絡会として、平成20年に立ち上げました。

町内にある7小学校・3中学校の中に入っている団体を纏めて、各学校の代表者が集まり連絡会としております。それぞれは各学校で活動しており内容もいろいろです。朝読と昼休みを利用したお話し会や、朝読をして国語の授業で各クラス年1回のお話し会をします。各学校によって取り組み方は違いますが、各学校の情報交換やそれぞれのスキルアップのために連絡会を通じて皆と情報交換をしながら各々の良いところを勉強する目的で連絡会をつくりました。連絡会として関わっているものの中で、町には「町の底力応援補助金」の目的で町内に自販機が設置してあり、その収益もいろんなボランティア活動に活用していこうと、町内で年間120~130万の予算の中から最高で1団体10万円というお金を頂いています。それを町民の皆さんに何か反映できるものに、ということで読書推進のための講演会を毎年しています。今年は講師をお呼びして120名の方に参加いただきました。町が開催するボランティアフェスタに、連絡会として参加し「お話の部屋」で1日に午前・午後2回の講演をしました。150名くらいの方がお話を聞きに来てくださいました。そういう形の活動をしています。

Q (河井) お話を聞いて少し恵まれた事例だと思いました。町の取り組みもなかなか良いですね、そういうのがあると資金が使えていいと思います。

A (原田小読書ボランティア「ぶっくまま」) 私たちの団体はできたばかりの3年目の団体です。

筑紫野市の原田小学校といえます。きっかけは、文部省の図書モデル校になったこともありまして、学校側が主催して、地域で活動されている「金の鈴」さんを講師として、絵本の良さや読み聞かせのすばらしさの講習会があったその時の受講生の有志が集まり立ち上げました。PTAとは別な原田小学校の保護者の団体です。まだ活動はほんの少しですが、朝読に15分間いただいて入っていると、学校行事として年に1回全学年の各クラスに20分間入る一斉読み聞かせをしています。毎月の定例会やいろんな講習会への参加、年に2回私たちの懇親会ということで忘年会や送別会を行っています。今、学校を飛びだして、1つだけ地域の南コミュニティーセンターで、赤ちゃんから未就学児に向けて絵本の良さということで「ぶっくままぷち」というのも立ち上げて月に1回活動しています。今度初めての試みでクリスマスお楽しみ会を昼休みを利用し、マンモス校なので、1・2年生だけを対象に初めてブラックシアターに挑戦しようと練習中です。学校のPTA活動でもないし、公民館の後ろ盾も無いので自分達が月100円の会費を出し合い、あと、イオンのイエローシート活動といって売り上げの1%を還元していただくのに登録して、毎月11日にはイエローシートを集めています。それが年間1万円から2万円弱ほどあります。会として「読み聞かせのお勧めの本120」とかを買ったり、原田小学校は筑紫野図書館から遠いので、団体貸し出しの1学期に1回借りてきた本を入れるロッカーを買ったりして活用しています。まだまだ歩き始めたばかりです。資金難なので募集のプリントなども印刷は学校でしますが、紙は自腹です。自分達の会報などは主人達の職場の裏紙をもらって学校で印刷して、と細々とやっております。できれば「ぶっくままぷち」になるまで頑張ろうと、

OBも何人か残っていただき、人数が足りないときは非常召集を掛けて参加していただいています。できればもっと地域に根ざして公民館や子ども会やいろんなところに行きたいと思っておりますが、どのように繋がっていけば良いのか戸惑っています。連絡協議会は春日や那珂川はある程度できていますが、筑紫野はまだできていないので、個人的にいろんな団体の方と連絡を取り合って“こういう時にはどうしたらいいのですか？”と聞いたり、図書館の司書さんに出前講座をお願いしたり、して活動しています。

まとめ 河井 律子氏

ありがとうございました。今日ここに一同に会した皆さん方が心強い味方になってくださると思います。いろいろ活動されているところに聞いてみられるといいと思います。最後に感想と私の思いをお伝えしたいと思います。

今日、いろんな発表やお話を聞いて、本当に皆さん良く勉強をして、きちんと自分達の資質の向上に向き合ってやってらっしゃることがよく分かりました。それと情熱の発露でしょうか、断らずに何でもやってみる、そういうことが大事ですね。最初に“はい”分かりましたと言ってからちょっと考えてみて、どうしようかと悩んで、それが実績をつくっていくのにとっても大きなものだと思います。そういう思いをしっかりと持ってらっしゃるから、心丈夫だなと思いました。それと、これがボランティア活動の一番大事なと思うのは、出来る人が出来る時に、そして楽しくやれるということ。読み聞かせが苦手な人は製作部門とか、そういう能力で自分の得意分野をうまく生かしたグループ作りがとても良くできているなと感じました。

課題は世代交代ですね。私、実は今日ここに来る前は資質の向上とかも課題かなと、いろいろ考えましたが、そこは皆さん自分達でしっかり取り組んでいらっしゃいました。やっぱり世代交代と会員不足がこれからの課題だと思います。このお話をいただいた時に、子ども読書推進とボランティアがなかなかイメージ的に繋がらず、どうしても子ども読書推進ボランティアは、独立してほかのボランティア活動と少し違うところに、自分達が位置しているという意識があるような気がしましたが、こうして、皆さん方と一緒に同じ時間を共有できる機会を持たせていただき、とつてもありがたく思いました。これを機会に皆さん方で人脈づくりをしてほしいなと感じました。

一つだけ言わせていただきたいのは、読み聞かせやお話し会をするということは、子どもと本とを結び付けるということだと思います。イベントではない、ということを再度皆さん方が確認していただけるといいなと思います。一時的に「わー」と面白かったね、というのではなくて、やっぱり子ども達が、今紹介してもらった本を“ちょっと借りて帰ろう”“読みたいね”そういう手渡し方が大事ではないかと思います。2000年の子ども読書年以降、私が課題として感じているのは、朝読で1年生から6年生まで、本の読み書かせで学校に入る形になって、本当に子ども達は1人読みをするようになったのか、ちょっとまだ“？マーク”が付くところです。本当に1人読みをするようになれば中学・高校で、あんなに読書離れにならないと思います。やっぱり1人読みのところが、まだ今一つ届いてないから中学・高校となかなか読書が続いていかない気がします。やっぱり小学校、とても難しいと思いますが、本を紹介していく過程で、もう一つ本を選ぶとか、本を紹介するところの勉強を、もう一息皆さん方で頑張ってもらっていただき、子ども達にしっかり本が届くような、そんな活動をしていただけるといいなと思いつつ、今日、皆さん方の活動を聞かせていただきました。皆さん方が生き生きしていて、私も元気になりました。これを一つのステップにしてさらにもっと生き生きと輝く活動をしていただけたら嬉しいなと思います。今日は皆さんお疲れさまでした。